

美浜区基本計画

美しい浜辺と様々な交流のある

みんなで創る^{つく}にぎわいと活力のあふれるまち 美浜区

～住んでみたいまち、ずっと住みたいまちを目指して～

【目次】

第1章	区の概況	2
第2章	現状と課題	4
第3章	区の将来像	7
第4章	施策展開の方向性	8

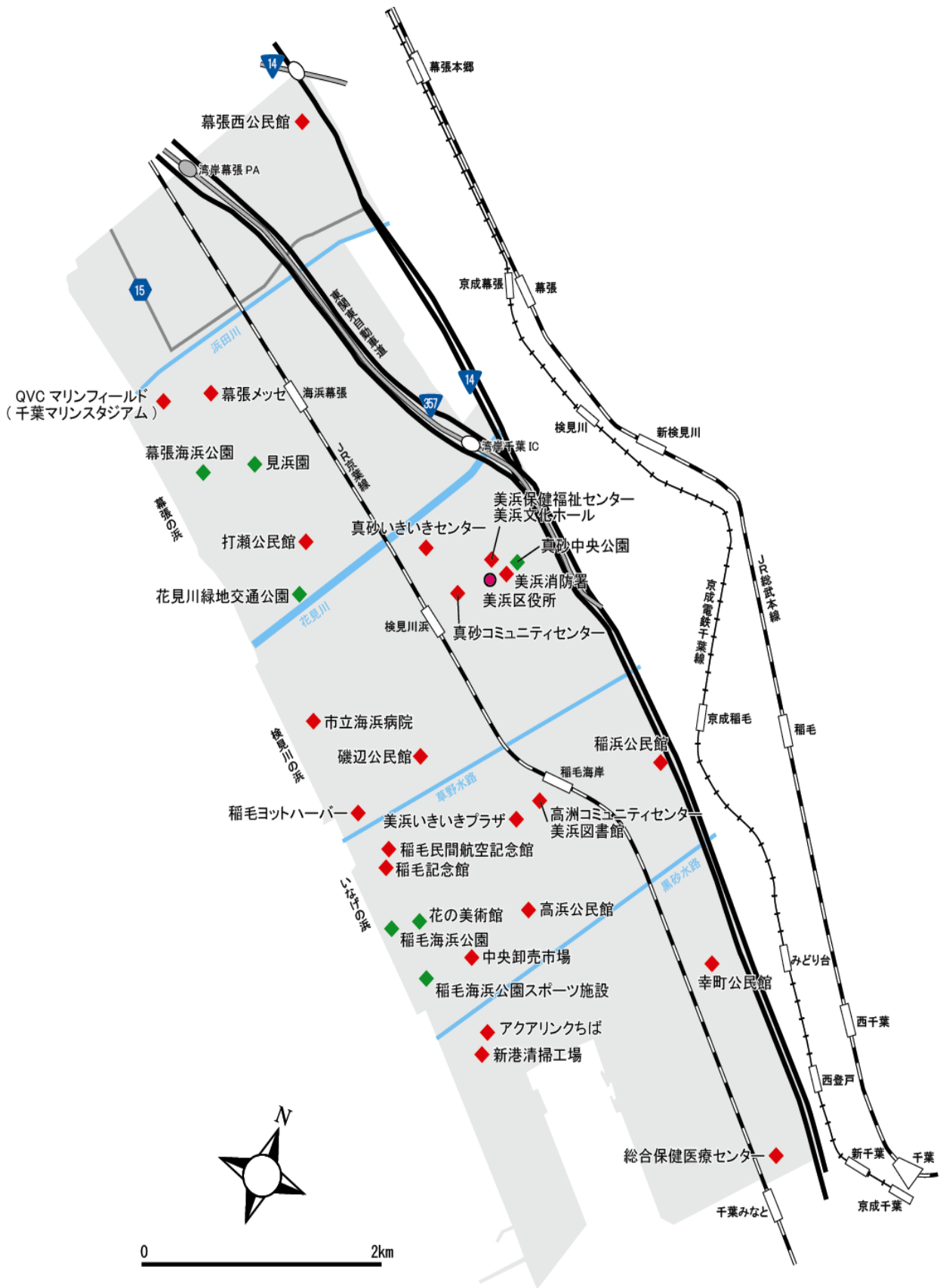
第1章 区の概況

- ・本区は、千葉市の西側に位置し、区の全域が埋立てにより造成された地域です。面積は21.16km²と6区の中では最も小さい区ですが、全体的に平坦な地形であり、計画的なまちづくりが進められています。
- ・区の南西側は東京湾に面し、海浜部には、稲毛海浜公園・幕張海浜公園といった公園のほか、いなげの浜・検見川の浜・幕張の浜という国内有数の人工海浜が整備されています。また、区の中央部には、区役所など行政サービス施設のほか、海浜ニュータウンなどの大規模な住宅地区などが整備されています。さらに、区の南東部には、食品コンビニートや自動車関連の事業所などが集積する工業地帯が広がる一方で、国道14号までの地域には多くの中高層住宅が建ち並ぶ住宅地域となっています。
- ・区内を流れる花見川を境として東京寄りの北西部は、幕張新都心としての整備が進み、大型コンベンション施設である幕張メッセをはじめとして、国際的な企業や研究開発機関などが集積しています。このほか、幕張新都心では、デザイン性に優れた住宅地区である幕張ベイタウン、ホテル・大型商業施設、プロ野球千葉ロッテマリーンズの本拠地であるQVCマリンフィールド（千葉マリンスタジアム）などが立地し、多くの来訪者でにぎわいをみせています。
- ・区内の交通網としては、海岸線とほぼ平行に国道14号とJR京葉線が通っており、JR京葉線の稲毛海岸駅・検見川浜駅・海浜幕張駅の3つの駅が、それぞれの地域の交通拠点としての役割を果たしています。

【人口・世帯数の見通し】

		平成17年 (2005年)	平成24年 (2012年)	平成27年 (2015年)	平成30年 (2018年)	平成33年 (2021年)
人口(人)		145,541	152,000	152,000	152,000	150,000
構成比 (%)	0～14歳	14.6	14.1	13.0	11.7	10.4
	15～64歳	72.1	64.6	61.6	60.8	60.7
	65歳以上	13.3	21.3	25.4	27.5	28.9
世帯(世帯)		58,976	65,000	66,000	68,000	68,000

【区の概況図】



第2章 現状と課題

1 魅力ある資源の有効活用

(1) 資源を活かした魅力づくり

- ・本区の海浜部には、稲毛海浜公園や幕張海浜公園といった公園のほか、いなげの浜・検見川の浜・幕張の浜という国内有数の人工海浜が広がっており、魅力的な海辺の景観を有しています。
- ・また、幕張新都心には、大型コンベンション施設である幕張メッセ、千葉ロッテマリーンズの本拠地であるQVCマリンフィールド(千葉マリンスタジアム)が立地しているほか、新港地区には屋内アイススケート場のアクアリンクちば、区役所周辺には区民の身近な文化活動の場となる美浜文化ホールが整備されており、スポーツ・音楽などの様々なイベントが開催されています。このほか、稲毛海浜公園内にある花の美術館では、四季折々の花が楽しめます。
- ・このような本区の貴重な財産である海辺や既存施設などについて、さらなる有効活用に努めるとともに、さらなるにぎわいを創出するためにも、区民をはじめとする多くの人に、その魅力を周知する必要があります。
- ・また、貴重な財産である海辺を未来へと継承していくためにも、海辺などの環境保全が求められています。
- ・このほか、千葉ロッテマリーンズをはじめとするプロスポーツチームと区民がより一層交流を深め、プロスポーツのホームタウンとして、まちぐるみで盛り上げることも望まれます。

(2) 企業や大学との連携によるまちづくりの展開

- ・幕張新都心の業務研究地区や新港工業地帯を中心に、区内には多くの企業が立地しています。
- ・また、幕張新都心の文教地区には、大学などの高等教育機関、研究・研修機関、インターナショナルスクールが立地していることなどから、今後は地域と企業や大学などが連携をより深めていくことが望まれます。

イメージ写真

2 未来を展望した取組み

(1) 子育て世代への支援

- ・平成27年(2015年)以降、本区の人口は減少に転じる見通しですが、6区の中では年齢構成が緑区に次いで若く、子育て世代が多く住むという特徴があります。
- ・このため、より一層子育てしやすい環境の整備が求められ、こどもたちが成人してもずっと住み続けられるよう、魅力を高めていくことが望まれます。
- ・また、道路や公園などの公共施設や商業施設が計画的に配置されているなど、子育てに適した素晴らしい環境であることを、子育て世代に広く知ってもらうことが望まれます。

(2) 未来に向けたにぎわい創出力の維持・向上

- ・幕張新都心の業務研究地区には、日本を代表する大型コンベンション施設である幕張メッセをはじめ、国際的な業務機能、特に本社機能、先端技術産業の研究開発機能などが集積しています。
- ・また、タウンセンター地区にはホテルや商業施設が立ち並び、休日などには多くの人が訪れています。
- ・幕張新都心のにぎわいを維持・向上するためにも、企業と地域がつながりを深め、ともにまちを育てていくことが望まれます。

3 超高齢社会への対応

(1) 急速に進む超高齢化への対応

- ・本区では、一人暮らしの高齢者が中央区と並んで多く、高齢者全体の約15%(平成22年〔2010年〕6月1日時点)となっています。
- ・今後は、一人暮らしの高齢者や介護・支援が必要となる高齢者の急速な増加が見込まれるため、これらへの積極的な対応が求められています。
- ・また一方では、定年退職した方など、豊富な経験や知識を持った元気な高齢者が、地域活動の担い手として活躍できる仕組みづくりも求められています。

(2) 集合住宅に住む高齢者等への対応

- ・本区には住宅団地が数多く存在し、都市再生機構などの公的賃貸住宅が住宅全体の約35%を占めています。そのうち、昭和40年代から50年代にかけて建てられた5階建て集合住宅の多くは、エレベーターが設置されていない状況にあります。
- ・そのため、一人暮らしの高齢者などは、外出、特に買い物などに支障をきたしている状況にあり、サポートが求められています。そのような中、一部の団地では、市と地域などが連携したモデル事業、住民主体の取組みやNPOの活動による問題解決へ向けた動きが見られ、こうした活動が他の地域にも広がっていくことが望まれます。

4 身近な地域でのつながりと支えあい

(1) 地域コミュニティの充実・再生

- ・区民の自治会加入率は74.2%（平成23年〔2011年〕3月末時点）であり、本市の平均的な水準にありますが、急速な高齢化や近年の高層マンションの増加などに伴い、地域コミュニティの希薄化が懸念されています。
- ・このため、地域での交流や身近なまちづくりへの参加を通じ、人と人とのつながりを育て、コミュニティを醸成していくことが望まれます。

(2) 多文化の共生

- ・本区では中央区と並んで外国人登録人口が多く、約6,000人（平成23年〔2011年〕3月末時点）の外国人市民が居住しています。
- ・文化や生活習慣の違いなどから、近隣住民とトラブルとなるケースも見受けられますが、多文化共生の観点から、外国人市民と地域社会が日常的につながりを持ち、ともに地域活動の担い手となる取組みが求められています。

(3) 身近な拠点機能の活用・強化

- ・本区には小学校24校、中学校14校が立地⁵³（平成23年〔2011年〕4月1日時点）していますが、一部の地域では、児童・生徒数の減少により、市立小中学校の適正配置について議論されています。
- ・このような背景と、学校が地域の拠点として機能してきたことを踏まえ、学校の統合に伴う跡施設の有効活用が望まれます。
- ・また、区民にとって身近な、愛着あるまちづくりに向け、今後、区民のニーズを踏まえたきめ細かな対応を可能とする区役所のあり方が求められています。

(4) 災害対策の充実

- ・平成23年（2011年）3月に発生した東日本大震災では、液状化などにより道路や公園、上下水道などが大きな被害を受けました。
- ・地震の直後から、町内自治会などにおいては、的確・迅速な初動対応が行われたことから、平常時から地域におけるさらなる協力体制を築いておくことが望まれます。
- ・また、幕張新都心をはじめ区内で多くの帰宅困難者が発生したことから、地域における帰宅困難者に対する支援体制の充実が求められています。

イメージ写真

⁵³ 私立小中学校を含む。

第3章 区の将来像

『美しい浜辺と様々な交流のある

みんなで創るにぎわいと活力のあふれるまち 美浜区』

～住んでみたいまち、ずっと住みたいまちを目指して～

美浜区に住んでみたい、ずっと住みたいと思わせる将来像を思い浮かべてみます。

区の貴重な資源（たから）である、海のある風景や浜辺での憩い、
幕張新都心のにぎわいなどを活かし、地域の人々が、こどもから高齢者まで、
あたたかい心で、世代や国を超えて交流し、みんながともに「協力」して、
自ら考え、「創り」歩いていく、ずっと住みたい輝くまち・・・
未来はみんなが協力して創っていく・・・『協創』による未来
『協創』…『協奏』
『海』と『人』の ハーモニーが織りなすまち
それが未来の美浜区です。

イメージ写真

第4章 施策展開の方向性

本区の目指すべきまちづくりの将来像に向け、みんなで協力して創っていく「協創」の考え方に基づいて、将来像の実現のための4つの施策を展開します。

また、本区の個性を高める2つの取組みについて、施策を展開します。

1 海辺を活かしたにぎわいのあるまちづくり

本区の貴重な資源である海や幕張新都心などを活かして、地域のにぎわいを創出します。

2 魅力ある住み心地のよいまちづくり

今住んでいない人が移り住みたい、また、今住んでいる人がずっと住み続けたいと思える、魅力ある住環境を整えます。

3 誰もがいきいきと安全・安心に暮らせるまちづくり

こどもから高齢者まで、誰もが健康に、楽しく、安全で安心して暮らせるよう、地域における人と人とのつながりを広げ、深めます。

4 世代や組織を超えた交流の盛んなまちづくり

様々な交流が活発に行われ、多様な主体が参加して、相互に理解を深め、お互いに支えあえる仕組みづくりを進めます。

美浜区の個性を高める2つの取組み

(1) 団地の再生

本区に数多く立地する中高層の住宅団地における、コミュニティの再生などに向けた仕組みづくりを目指します。

(2) 幕張新都心の魅力の向上と活用

幕張新都心の魅力を再認識し、地域の企業などと連携しながら、さらなる有効活用を目指します。

1 海辺を活かしたにぎわいのあるまちづくり

- 本区には、いなげの浜・検見川の浜・幕張の浜といった人工海浜のほか、花の美術館・稲毛海浜公園プールなどを含む稲毛海浜公園、QVCマリフィールド（千葉マリスタジアム）を含む幕張海浜公園など、区民の身近な憩いの場となっている公園や施設があります。
- また、幕張新都心には幕張メッセや大型商業施設なども集積し、多くの来訪者によりにぎわいを見せています。
- こうした貴重な資源である海や海辺の施設、幕張新都心などを活かして、より一層の地域のにぎわいを創出します。

【取組み項目】

（1）海辺の環境保全

- ・身近な憩いの場である美しい海辺を、地域と協力して保全します。

（2）海辺の魅力の発信

- ・いなげの浜などの自然資源や幕張新都心などを活かし、千葉市・美浜区の魅力を広く発信します。

（3）集客による活性化

- ・海浜部の公園や幕張メッセ、QVCマリフィールド（千葉マリスタジアム）などの集客力のある資源を有効活用し、市内外から多くの人に訪れてもらい、まちを活性化します。

（4）海辺の新たな魅力づくり

- ・さらなるにぎわいを創出する新しい海辺の魅力を発見し、活用します。

イメージ写真

2 魅力ある住み心地のよいまちづくり

- 本区は計画的に整備された街並みを有し、暮らしやすい環境にあるといえます。そのような美浜区に、今住んでいない人が移り住みたい、また、今住んでいる人がずっと住み続けたいと思える、魅力ある住環境を整えます。
- 特に、若い世代が住んでみたいと思える魅力づくりと、その情報発信を強化します。

【取組み項目】

(1) 魅力的な都市イメージの創出

- ・美浜区に住んでいることを誇れるまちを目指します。

(2) 子育て環境の整備

- ・若い世代が移り住むような、魅力ある子育て環境を整えます。

(3) こどもの参画推進

- ・こども一人ひとりが、地域の担い手として、地域に参画しやすい環境づくりを進めます。

(4) 整備された街並みの魅力の発信

- ・海浜ニュータウンや幕張ベイタウンなど、計画的に整備された街並みを活かし、内外にその優れた住環境をアピールします。

イメージ写真

3 誰もがいきいきと安全・安心に暮らせるまちづくり

- ▶ こどもから高齢者まで、誰もが健康に、楽しく、安全で安心して暮らせるよう、地域における人と人とのつながりを広げ、深めます。
- ▶ そのために、元気な高齢者などの地域参画を促していく一方で、健康づくりの支援や、様々なニーズに即した支援を受けられる仕組みづくりなどに取り組みます。
- ▶ また、地震などの災害時に、地域で連携した対応が可能となる仕組みづくりを進めます。

【取組み項目】

(1) 高齢者の地域活動への参加促進

- ・豊富な経験や知識を持った元気な高齢者などが、地域活動の担い手として活躍できる仕組みづくりを進めます。

(2) 生きがいつくりの推進

- ・身近な場での文化活動やスポーツへの参加を通じて、みんなが楽しく生きがいを持って暮らせる仕組みづくりを進めます。

(3) 健康づくり活動支援

- ・高齢者が寝たきりにならないよう、日々の健康づくりや介護予防に励むことができる環境を整えます。

(4) ニーズに即した支援の提供

- ・支援を必要とする人が、必要な時に、必要な支援を受けられる仕組みづくりを目指します。

(5) 地域活動による防犯・防災機能の強化

- ・日頃からのつながりを深め、地域の防犯・防災機能を強化します。
- ・区の全域が埋立地であることを考慮し、地震による液状化や津波などに対する防災意識を高めるとともに、地域の企業などと連携した帰宅困難者の支援体制の強化を図ります。

イメージ写真

4 世代や組織を超えた交流の盛んなまちづくり

- ▶ コミュニティの希薄化が懸念されていますが、世代や組織を超えた様々な交流を通じて、まちづくりの基本となる地域の力を高めます。
- ▶ そのためにも、様々な主体が参加して、相互に理解を深め、お互いに支えあえる仕組みづくりを進めます。

【取組み項目】

(1) 多世代交流の活性化

- ・既存施設を有効活用し、こどもと高齢者など地域における多世代の交流を進めます。

(2) 外国人市民の地域への積極的な参加促進

- ・多文化が共生する環境づくりに向け、外国人市民も積極的に地域社会に参加できる環境整備を通じ、相互理解を促進します。

(3) 地域と企業・大学との連携

- ・企業や大学が地域と連携し、地域の問題解決に向けて積極的に取り組むことができる仕組みづくりを進めます。

(4) 多様な人材の育成

- ・ボランティア活動など地域の様々な活動の担い手を確保するため、これからの地域を担う若い世代を中心として、こどもから高齢者まで幅広く人材を育成する仕組みづくりを進めます。

(5) 区役所機能の強化

- ・区民にとって身近な、地域の拠点施設である区役所の機能強化に向け、地域活動などのネットワーク機能や、コーディネート機能などを強化します。

イメージ写真

美浜区の個性を高める2つの取組み

- ▶ 本区では、まちづくりの将来像の実現に向けた4つの施策展開の方向性に加え、本区の個性を高める2つの取組みを掲げて、その実現を目指します。

(1) 団地の再生

- ・本区に数多く立地する中高層の住宅団地において、コミュニティの再生などに向けた仕組みづくりを進めます。

【取組み項目】

・日常生活支援の促進

日常生活に支障のある高齢者などを対象とし、買い物支援などの仕組みづくりを進めます。

・子育てを応援する団地づくり

若い世代にとって魅力的な団地となるよう、子育てしやすい環境づくりを進めます。

・外国人市民と共生する地域づくりの推進

団地に住む外国人市民とともに、暮らしやすい地域づくりを進めます。

・団地再生活動の促進

地域における様々な主体の連携促進などを通じ、地域が主体となった団地再生活動を促すための環境づくりを進めます。

(2) 幕張新都心の魅力の向上と活用

- ・幕張新都心の魅力を再認識し、地域の企業などと連携しながら、さらなる有効活用を目指します。

【取組み項目】

・国際性を活かした地域づくり

幕張メッセなどを活かし、業務拠点・レクリエーション拠点としての国際性の豊かさを魅力としてとらえ、幕張新都心における様々な交流やにぎわいを創出します。

・千葉ロッテマリーンズとの連携

QVCマリンフィールド（千葉マリスタジアム）を本拠地とする千葉ロッテマリーンズと連携し、スポーツなどを通じた区民との交流を進めます。

・幕張新都心の魅力の発信

多くの人を訪れる幕張メッセやQVCマリンフィールド（千葉マリスタジアム）など、幕張新都心の魅力を活かして、千葉市・美浜区の魅力を広く発信します。

・企業との連携によるまち育て

幕張新都心の企業とつながりを深め、ともにまちづくりを進めます。

＜参考＞区基本計画について

■ 区基本計画

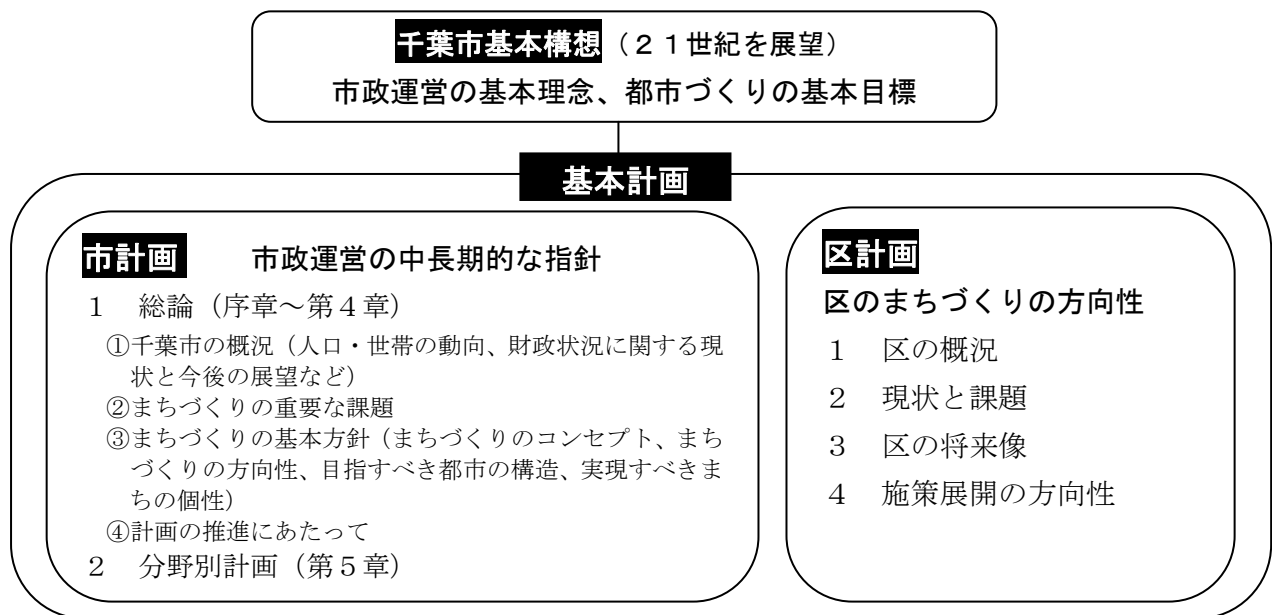
区基本計画について

1 区基本計画の策定の目的

- ・市民に身近な区の特性を活かしたまちづくりに向けて、各区のまちづくりの方向性を示す新たな区基本計画（以下「区計画」という。）を策定しました。

2 区計画の位置付け

- ・市基本計画（以下「市計画」という。）は、千葉市基本構想に掲げる基本理念や都市づくりの基本目標を受け、市政運営の中長期的な指針として、全市的な視点からまちづくりの方向性を示しています。
- ・一方、区計画は、市計画の「まちづくりの重要な課題」や「まちづくりの基本方針」などを踏まえたうえで、区ごとの特色や課題に応じ、市民に身近な行政としての区役所が特に取り組むべき施策などを位置付けています。



3 計画期間

区計画の計画期間は、平成24年度（2012年度）から33年度（2021年度）となります。

4 区計画の役割 ～ みんなが共有できる区のまちづくりの基本指針

- ・本市は平成4年（1992年）の政令指定都市移行後、市民に身近な区役所を中心に、地域の特性を活かした区づくりを進めてきました。今後さらに魅力ある地域づくりを進めるためには、地域のニーズや課題を的確に把握し、その特性に応じたきめ細やかな行政サービスを展開するとともに、区民一人ひとりのまちづくりに対する意識の向上を図り、地域がともに支えあい、

ともにはぐくむまちづくりが必要です。

- ・区計画の策定にあたっては、各区役所で区民検討会を設置し、区民とともに各区の現状や課題を話し合ったうえで、今後10年間、区民や地域団体、企業、区役所などがともに目指すべき将来像や方向性を明らかにしました。
- ・今後、地域づくりや区政の推進にあたり、みんなが共有できるまちづくりの基本指針として、区計画を最大限、尊重していきます。

5 区計画の構成・内容

- ・区計画の構成は、以下のとおり、各区とも同一としていますが、その中で、内容や様式等について、区民検討会の意見を取り入れ、それぞれの区の個性や特色を出しています。

区 分	内 容
区 の 概 況	区の沿革や地域資源、人口・世帯の見通しといった、区の基本的な情報を示しています。
現 状 と 課 題	まちづくりの前提となる、区の現状や課題を整理しています。
区 の 将 来 像	今後10年間で区が目指すべき将来像（まちづくりの目標）を示しています。
施策展開の 方向性	区の将来像を実現するため、まちづくりにおいて、区役所が特に取り組むべき施策などを示しています。

6 区計画の推進

(1) まちづくりはみんなの力で進めていきます。

- ・まちづくりは、区民や地域、団体、企業、区役所など、みんなの力を結集して進めていきます。

(2) 10年後の未来を目指した計画です。

- ・「区の将来像」の実現を目指し、将来的な区役所機能の強化も視野に、今後10年間で本計画に取り組んでいきます。

○区民とともに計画づくり ～ 区民検討会

各区役所では、区計画の作成段階から区民の皆様にご参加いただき、計画を作成しました。

平成22年（2010年）に公募市民や地域団体の方などで構成する区民検討会を設置し、各区の現状や課題をはじめ、10年後、20年後を見据えた区の将来像や、計画に盛り込むべき施策などについて、活発にご議論をいただきました。

(写真) 区民検討会